



# 水ときらめき紀の川館に 団体の来館者がありました

流水調整課 R1.12.3



紀の川大堰の水ときらめき紀の川館に、台湾から**68名の皆さん**が見学に来られ、当事務所の流水調整課3名が、見学のご案内をいたしました。昨日の豪雨から一転して、少し雲は多かったものの海外からいらっしゃったお客様を歓迎するかのような冬晴れとなりました。皆さん、関西空港に到着後、バスで最初に訪れた場所が、光栄にも“水ときらめき紀の川館”とのことでした。館内や展望デッキ、魚道観察室を楽しくご観いただきました。

## 🌿 団体見学概要 🌿

日時：令和1年12月3日(火)13:30~14:30

会場：水ときらめき紀の川館

参加人数：68名

団体名：台湾北基農田水利会



## 紀の川大堰概要説明



流水調整課の専門員が、スライドを用いて、紀の川大堰の概要や仕組み・役割などを説明し、添乗員の方が台湾語で通訳をしてくださいました。皆さん、台湾で水に関する団体に属されているとのことで、紀の川大堰に関心をもたれたようでした。



## 魚道の見学



魚道へ続く道



階段式魚道を見学

魚道では、昨日の雨の影響から水が濁っていたため数匹の魚はいたものの、いつも優雅に泳いでいるたくさんの魚たちの光景は、残念ながら見ることはできませんでした。



## 魚道観察室の見学



魚道観察室へ



階段式魚道を横から見るができます。



## 館内の見学・展望デッキ



窓越しからの操作室



紀の川大堰を一望できる展望デッキ



中国語版の大堰の概要をお配りしました。

2Fの操作室と3Fの展望デッキをご案内しました。「大堰の水を農業用水としても使いますか?」「海から大堰はどのくらいの距離がありますか?」など、その他たくさんの質問をいただきました。紀の川大堰を見学した後は、「梅の里」、和歌山県南部町を観光し、紀伊半島を一周するとの事でした。今回のように通訳の方がいらっしゃれば、「きらめき紀の川館」を見学していただけますので、海外からのお客様も大歓迎です! [団体見学のお申込みはこちら](#)



質問

Q. 大堰のゲートがおりている時、魚や生き物たちはどうやって川を移動するのですか?

A. 魚や生き物が移動できるように、それぞれの特徴を研究して、3種類の魚道(人工河川式魚道、階段式魚道、デニール付パーチカルスロット式魚道)をつくっています。魚や生き物は、好きな魚道を通して移動します。

